

1 沖縄21世紀農林水産業振興計画(抜粋)八重山圏域

〈世界に誇れる日本最南端の優れた自然と農林水産業の共生〉

(1) 農林水産業の特徴

八重山圏域の農業については、総農家数が県全体の7%で耕地面積が21%を占めており、地域特性を生かし、さとうきび、水稻、パインアップル等が栽培されるとともに、特に肉用牛については本県一の産地となっている。また、観光客等のニーズに応え、マンゴー、パパイヤ等の熱帯果樹生産が伸びており、平成25年から供用される新空港の開港に伴い、更なる進展が期待されている。

農業の品目別拠点産地については、オクラ、ヘリコニア、ジンジャー、パインアップル(生食用)、薬用作物(ボタンボウフウ)、肉用牛の8産地が拠点産地として認定されており、生産振興に取り組んでいる。

特に、おきなわブランドの戦略品目である肉用牛において、子牛生産の他に石垣牛等の肥育牛の生産も展開されており、生産の拡大及びブランド化に向けた取り組みが行われている。

石垣島においては、農業用ダムを活用したかんがい施設や区画整理及び農地防風施設等各種の生産基盤の整備が実施されており、肉用牛やさとうきびを中心に、安定的に確保された農業用水を活用した、マンゴー、パパイヤ等の熱帯果樹、熱帯性花き、野菜等特色ある農業生産が展開されている。

森林は、自然環境及び県土の保全等の機能強化を図りつつ、木材生産や水源のかん養を図るため森林の整備が行われている。

水産業は、恵まれた海域条件を生かした一本釣り、潜水器漁業、沿岸まぐろ延縄漁業等が行われており、また、クルマエビやモズク等養殖も生産を伸ばしてきている。

また、本圏域は自然に恵まれ、体験・滞在型のグリーン・ツーリズム、森林ツーリズム、ブルー・ツーリズムを通じた地域活性化が期待される地域である。

項目	数量	県対比(%)	備考
農家総数(H22)	1,549戸	7.2	2010世界農林業センサス
販売農家数	1,426戸	9.4	
主業農家数	558戸	9.7	
農業就業人口	1,865人	8.3	
耕地面積(H23)	8,100ha	20.7	耕地面積調査
田	503ha	58.2	
畑	7,590ha	19.9	
林野面積(H22)	40,818ha	36.8	2010世界農林業センサス
漁業経営体数(H17)	484経営体	14.1	海面漁業生産統計調査

(2) 振興方向

ア 農業

本圏域の農業は、亜熱帯気候特有の自然条件を生かし、地形、土壌、気温等に適応した品目が生産されている。その中でも肉用牛を筆頭に、さとうきび、葉たばこ、水稻、パインアップル、豚、マンゴー、花きなどが盛んである。それ以外の野菜、熱帯果樹、薬用作物、畜産等についても多様な品目で展開しており、おきなわブランド育成を図り、農家経営の安定に資するためには品目の選択と集中による拠点産地を形成し生産振興を推進する。

また、かんがい施設や区画整理等の生産基盤の整備を推進するとともに、既設施設の再編・更新を図り、農業用水の有効活用等を促進する。さらに、台風等気象災害から農作物被害を防ぐための防風林整備や赤土等流出問題の総合的な対策を推進し、農地保全及び環境負荷の低減を図る。さとうきび、パインアップル、水稻などについては、生産性及び品質の向上に努め、肉用牛、野菜、花き、果樹などについては、おきなわブランド化を推進する。

さらに、新規就農者等の育成は、経営資源の提供や研修機会、経営・技術指導等の支援など強化を図る。農林水産業を取り巻く研究課題については、生産現場や普及指導機関等との連携を図り、課題解決と迅速な普及を推進する。

また、観光リゾート地域としての特性を生かし、これら観光施設への供給等域内の需要に対応した野菜、熱帯果樹等の生産拡大に努め、地産地消の促進を図るとともに、体験・滞在型のグリーン・ツーリズムを促進する。

周辺離島の竹富町の西表島においては、さとうきび、パインアップル、熱帯果樹、野菜、水稻等を中心に生産の振興を図るとともに、肉用牛との経営の複合化を促進する。

波照間島については、さとうきびを中心に肉用牛、モチキビ等、小浜島については、さとうきびを中心に肉用牛等、黒島については、肉用牛の振興を図る。

与那国町については、さとうきび、水稻、肉用牛、薬用作物の生産を振興し、経営の複合化を促進する。

(ア) さとうきび

生産性及び品質を向上させるために、優良品種の増殖普及や適期栽培管理、株出栽培体系の推進、有機物の施用や緑肥作物の栽培、防風・防潮林の普及啓発等を図るとともに、肉用牛との複合化や葉たばこ・野菜等との輪作体系を推進していく。

また、さとうきび経営安定対策に対応した担い手を育成するため、農業生産法人、農作業の受託組織等生産組織を育成・強化するとともに、「増産プロジェクト基本方針」等に基づき、生産者をはじめ、関係者が一体となった増産対策により、生産の増大に向け取り組む。

(イ) 野菜

定時・定量・定品質の安定生産を図ることを基本に、台風等気象災害に対応したハウスや防風・防虫等ネット栽培施設等防風施設の整備により、オクラ、かぼちゃ、ゴーヤー、さやいんげん等の安定生産に努めるとともに、土づくり、防風対策、販売対策の強化により生産拡大を図り、拠点産地の形成・育成を推進する。

また、JAの地区営農振興センター等を拠点とした流通・販売体制の強化を図る。

(ウ) パインアップル

酸性の国頭マーヅ土壤からなる地域(島)では、パイン栽培に適していることから、生食用品種を中心に生産が行われおり、観光産業へも大きく貢献している。

今後とも生食用優良種苗の導入及び開花処理技術の向上による出荷期間の拡大等により、生産性及び商品価値の向上を図るとともに、生食用果実の生産拡大を推進する。

(エ) 熱帯果樹

優良品種の導入、栽培技術の改善、台風等気象災害に対応したハウスの導入など防風対策の強化等を図り、観光産業へも大きく貢献しているマンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ等の安定生産及び品質向上を目指し、拠点産地の形成・育成に努める。

(オ) 花き

防風・防虫等ネット栽培施設や台風等気象災害に対応したハウス等の導入を推進し、ジンジャー、ヘリコニア等を中心とした熱帯花きや切り葉等の生産拡大を図り、拠点産地としての周年安定出荷体制の確立、ブランド化の推進に努めるとともに流通・販売対策の強化を推進する。

(カ) 水稻

栽培技術及び病虫害防除技術の向上等により安定的な生産を図る。さらに、消費者ニーズに対応して環境に配慮した米づくりを推進するとともに、生産コストの低減を図り、所得の向上に努める。

(キ) 葉たばこ

生産性及び品質の向上や作業の省力化に努め、安定的な生産を図る。

(ク) 畜産

肉用牛については、ブランド化の推進、自給飼料基盤の整備、優良種畜の導入・育成、放牧地高度利用の推進及び飼養衛生管理技術の改善等により、供給基地としての産地形成を推進する。さらに、流通体制強化のため食肉センターの整備等を行う。

また、畜産の環境対策を促進するため家畜排せつ物処理施設の整備を推進し、耕畜連携による資源循環型農業を促進するため、堆肥センターの活用を推進するとともに、地力の維持増進を図り、飼料自給率の向上に努める。

イ 森林・林業

水源地域においては、水源のかん養を図るための森林の整備及び保全を推進するとともに、その保全のために保安林の計画的な指定や適切な管理、治山施設の整備を行う。

貴重な動植物が生息・生育する森林については、適正な保全を図りつつ、森林環境教育や保健・休養及び森林ツーリズムの場として森林の整備を推進する。

さらに、森林・林業に精通したガイドの養成等を図り、森林ツーリズムを推進する。

また、木材の生産を重視すべき区域においては、林業の持続的かつ健全な発展を図るため、森林組合等林業事業者の支援を行う。

(ア) 林産物

リュウキュウマツ等の計画的な生産及び収穫伐採体制を確立するため、効率的な伐採技術の確立、及び流通・販売体制を強化する。また、木炭等の生産拡大に努める。

ウ 水産業

地域特性を生かした水産業の振興を図るため、漁港・漁場等の生産基盤を整備し、生産体制を強化する。

また、流通・販売体制の強化を図り、販路の確保・拡大に取り組む。

漁業者等に対して各種学習会や巡回指導を実施することにより、漁業者の資質向上、資源管理に対する啓発を図るとともに、漁業後継者の育成を行う。

さらに、地域資源の利活用や都市との交流を促進するため、体験漁業等ブルー・ツーリズムを推進する。

(イ) 海面漁業

持続的な生産活動が維持されるよう、研究機関と連携したハタ類、マチ類等の資源管理を推進する。また、マグロやソデイカ、シャコガイ類等の生産拡大を図るため、流通・販売対策の取り組みを支援する。さらに、海洋保護区の設定とブルー・ツーリズムとのリンクによる新たな海洋・観光・水産資源の創出に向けた取り組みを行う。

(イ) 海面養殖業

登野城魚類養殖場を拠点とするハタ類等魚類養殖やシャコガイ類、クルマエビ、モズク等の生産拡大を図るため、漁家に対する技術指導や魚病防疫体制を整備するとともに、流通の機能強化を図る。

(重点振興品目)

【耕 種】	さとうきび、水稻、葉たばこ、オクラ、さやいんげん、ゴーヤー、かぼちゃ、レットジンジャー、ヘリコニア、切り葉、パインアップル（生食用）、マンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、かんしょ、薬用作物
【畜 産】	肉用牛
【林 業】	木材、木炭
【水産業】	クルマエビ、モズク、マグロ類、カジキ類、ソデイカ、ヤイトハタ、シャコガイ類、タカセガイ、マチ類、フエフキダイ類

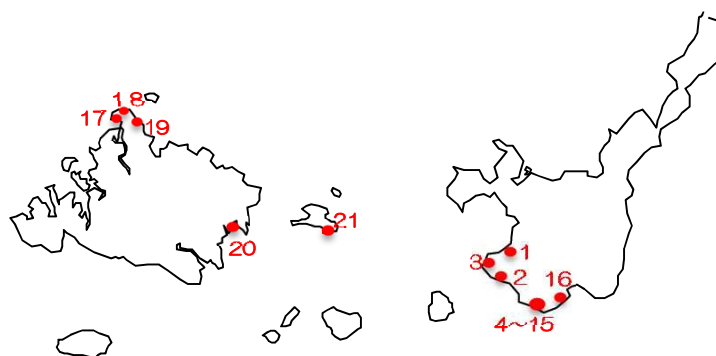
2 認定及び表彰関係

(1) 「おきなわ食材の店」登録制度

沖縄県では、沖縄県産食材を積極的に活用した料理の提供を通して、県民や観光客に県産食材の魅力を発信している県内飲食店を「おきなわ食材の店」として登録している。
八重山管内では、21店舗が登録されている。(平成27年3月現在)

八重山地域の登録店舗一覧

No	店名	分類	住所	電話番号
1	和琉ダイニング みらね	和食	石垣市新川1129-2	0980-87-8737
2	マリティーム	ホテル・宿泊施設	石垣市新川2459-1	0980-84-3102
3	創作島料理 ゆんたく	創作料理	石垣市新川富崎1625 7サトリートヴイレッジ	0980-88-7000(代表)
4	南ぬ島の食べものと島酒 うさぎや	居酒屋	石垣市石垣1-1-102	0980-88-5014
5	海人居酒屋 源 石垣店	居酒屋	石垣市石垣5-2	0980-88-8321
new!	6 沖縄居酒屋 石垣島	居酒屋	石垣市石垣14-3	0980-83-5052
7	石垣島 スペイン料理&レストランカフェ ハイビスキャット	カフェ	石垣市石垣257-3	0980-83-0016
8	漁師の居酒屋 一魚一会	海産物	石垣市大川216 ピュアネスイシダ1F	0980-87-0926
9	Hau tree gelato (ハウ トゥリー ジェラート)	その他	石垣市大川281	0980-83-5452
10	さよこの店	その他	石垣市登野城町170	0980-83-6088
11	味処 のりば食堂	食堂・レストラン	石垣市登野城619	0980-82-7745
12	郷土料理 琉球の爺(おやじ)	郷土料理	石垣市浜崎町2-1-7	0980-82-0070
13	炭火焼肉 たけさん亭	焼肉	石垣市浜崎町2-2-4	0980-88-0704
new!	14 海人居酒屋 なつや	居酒屋	石垣市美崎町10-17	0980-82-0070
15	BAR NOBU	バー	石垣市美崎町12-8 TOMOビル1F	0980-83-3494
16	美味食彩花HANA	創作料理	石垣市大浜466-15 2F	090-1940-0534
17	琉夏 (ruka)	ホテル・宿泊施設	竹富町字上原10-357	0980-85-6645
18	レストハウス&ペンション星の砂	ホテル・宿泊施設	竹富町字上原289-1	0980-85-6448
19	カフェギャラリー 西表自然学校	ホテル・宿泊施設	竹富町字上原546-3	0980-85-6481
20	農家民宿 ゆうわむら	ホテル・宿泊施設	竹富町古見202	0980-85-5656
21	【はいむるぶし】ぬちぐすいレストラン ブッフェダイニング	ホテル・宿泊施設	竹富町字小浜2930	0980-85-3111



店舗所在図



平成26年度登録証交付式の様子

「おきなわ食材の店」登録基準

- 1 年間を通して、提供しているメニューの半数以上が地産地消メニューであること。
- 2 地産地消メニューとは、県産食材を半数以上使用したメニューであること。



(2) かぼちゃ拠点産地認定と産地活動表彰

竹富町西表島のJA竹富野菜生産部会（現西表島カボチャ生産部会）では、平成12年からかぼちゃ栽培を始め、現在は12戸の農家が約10haで栽培を行っている。離島の離島ゆえに資材コストや堆肥の入手等、様々な不利性を抱えているが、講習会の参加率も高く、品種を統一し、すいか等の栽培経験を活かして、大面積でありながら細やかな栽培管理が行われてきた。

その結果、平成23～25年産の大玉率（L玉以上）は85%以上、反収も900kg程度で推移しており、また交配60日後を基本に必ず圃場で試し切りを行って出荷するなど、市場が求める「大玉・完熟」にこだわったかぼちゃ栽培が行われている。これらの活動や実績が認められ、平成26年3月に県の拠点産地に認定された。また平成27年2月の花と食のフェスティバルにおいて、JA西表島カボチャ生産部会が「野菜産地活動表彰（おきなわブランド化貢献部門部門）」を受賞した。

これまで「沖縄産」「八重山産」として一括販売されてきたためまだ知名度は低いですが、認定を機に、念願だった「西表島産」としての販売も始まることになった。栽培講習会や現地検討会を継続し、栽培技術の更なる向上に取り組むとともに、今年度は、圃場毎の作付情報の管理、東京訪問や拠点産地認定報告会など市場との連携強化とPR、竹富町マスコットキャラクター「ピカリャー」を取り入れた新しい出荷箱やチラシの作成、玉磨き機導入による外観品質向上と出荷調整作業の効率化など、販売力強化に向けた取組も行っている。これからも、高品質のかぼちゃづくりと、離島のハンディキャップを乗り越えて次世代に継承できる産地づくりを期待したい。



H26.3.26 拠点産地認定証交付式（県庁）



H27.2.1 野菜産地活動表彰（奥武山公園）



H26.3.27 東京市場へ認定報告と入荷状況視察



H26.11.29 現地検討会で技術を共有



(3) 農林漁業賞を受賞

平成27年1月31日に奥武山公園にて表彰式が行われ、石垣島パイン生果組合名蔵（組合長 平安名貞市氏）が園芸部門集団の部で農林漁業賞を受賞した。

同組合は高品質果実の出荷にこだわり、組合独自の厳しい選果基準を設けて、果実の品質向上に努めており、果実の出荷先についても、消費者と直接つながることのできる組織へ限定する等のこだわりを持っている。また、この厳しい基準を達成するために組合で徹底されている栽培管理体系は、近隣農家の手本となっており、地域全体の栽培技術向上に繋がっている。さらに、同組合は、地域の産地協議会の構成員として参画しているとともに、研修生を受け入れ、後継者育成に力を入れるなど、石垣地域のパインアップル産業発展のために大きく貢献していることが評価された。



(4) 「おきなわ花と食のフェスティバル2015」関係表彰

平成27年1月31日～2月1日、那覇市奥武山公園にて、「おきなわ花と食のフェスティバル2015」が開催された。第25回野菜品評会では、ゴーヤー4点、さやいんげん2点、かぼちゃ1点の出品があり、石垣市の伊志嶺栄作氏のゴーヤー（品種：汐風）が銅賞を受賞した。

第30回花き品評会では、石垣市の金城文夫氏が出品されたドラセナ（品種：レインボー）が品種特性や草姿バランス等が評価され、銅賞を受賞した。



(5) 第38回沖縄県さとうきび競作会表彰

第38回沖縄県さとうきび競作会表彰式が4月24日、那覇市の沖縄県産業支援センターで行われ、石垣市新川の石川光子さんが優秀な奨励農家、白保の内原武雄さんが特別表彰を受けた。

内原さんは、約60年に渡りさとうきび栽培に取り組み、石垣島へのハーベスター導入は後継者の育成などを通して、地域の生産振興に貢献していることが評価された。

受賞に石川さんは「たいへん喜んでいる。体力の続く限り、キビ作りに励みたい。」内原さんは「長年のキビ作りが評価され、感激している。これからも頑張りたい。」と喜びを語った。

【農家の部】

《奨励農家》沖縄県糖業振興協会理事長賞

八重山地区代表（石垣市字新川） 石川 光子 氏

甘蔗糖重量 2,868kg/10a、蔗茎重量 7,780kg/10a、甘蔗糖度 15.9度、春植

【特別表彰の部】

《特別表彰》沖縄県糖業振興協会理事長賞

石垣市白保 内原 武雄 氏



表彰式の様子



八重山毎日新聞 平成26年4月25日

(6) 平成26年度沖縄県青年農業者会議表彰

意見発表の部で奨励賞、プロジェクト発表の部で優秀賞を受賞！

平成26年11月27日（木）に、那覇市で平成26年度沖縄県青年農業者会議（主催：沖縄県農林水産部、沖縄県農業青年クラブ連絡協議会）が開催された。

意見発表の部には与那国町の林健太郎氏（畜産）が、プロジェクト発表の部に石垣市の大浜善也氏（野菜）が出席し、意見発表の部は奨励賞をプロジェクト発表の部では優秀賞を受賞した。その結果を受け、大浜氏は次年度開催される平成27年度九州沖縄青年農業者会議に沖縄県代表として派遣されることが内定した。

優秀賞に入賞したプロジェクト発表の部の審査講評では、「野菜の技術対策が5件、農産流通が1件と若者らしい積極的な発表であった。また、収量性・経済性・労働力と活動成果がわかりやすい内容であった。」との高い評価を受けた。

今後も、地域農業のリーダーとして活躍が期待される。

部門	発表者	市町村	発表課題名
意見発表の部	林 健太郎	与那国町	畜産における新規就農モデルについて
プロジェクト発表の部	大浜 善也	石垣市	”タマネギ”栽培による経営改善～新たな作型の導入とそ



写真1.意見発表の部(発表風景)



写真2.意見発表の部(表彰風景)



写真3.参加した青年農業者による記念撮影



写真4.八重山地域の参加者で記念撮影

(7) 平成26年度『防風林の日』表彰

平成26年度『防風林の日』第8回沖縄県防災農業賞を受賞

平成26年11月27日に石垣市健康福祉センターにて表彰式が行われ、石垣島果樹生産出荷組合（代表者 島田長政氏）が第8回沖縄県防災農業賞（団体の部）を受賞した。

ミバ工等の特殊病害虫の根絶による直接本土出荷解禁を契機とし、日本で最も温暖な気候条件を活かしたマンゴー栽培を先駆的に始めた同組合は、台風常襲地域の石垣市において安定的に園芸作物を生産し、定時・定量・定質の商品を消費者に供給するために、園地の環境整備に取り組み、防風林及び防風垣の整備を計画的に実施してきた。樹種はイスノキ・テリハボク、イヌマキ等を植栽し他の果樹園のモデルとなっている。

近年、栽培施設が大型化して構造的にも台風にも耐性のある高価な施設が補助事業等で導入されているが、頑丈な構造の施設ほどランニングコストが後々の経営を圧迫することから、防風林の整備を実施して、低コストの施設栽培を奨励していくことを目標としている。

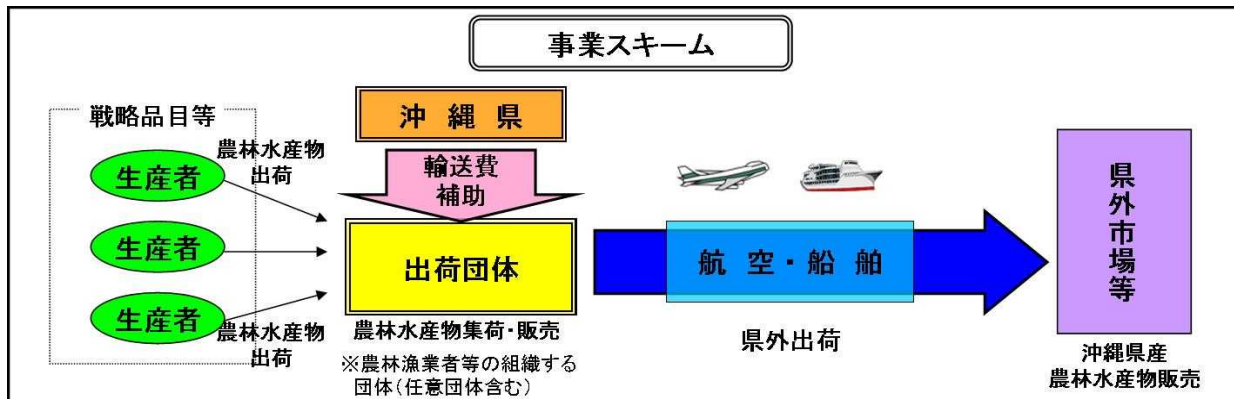
同組合は防風林の保全管理と景観保全が徹底され、防災農業の模範となっていることが評価された。



3 新たな事業展開

(1) 農林水産物流通条件不利性解消事業

沖縄県は、本土出荷される県産農林水産物の輸送費について、遠隔地による流通条件不利性を解消するため、平成24年度から出荷団体の本土出荷に要する輸送費の一部を補助する事業を行っています（沖縄振興特別推進交付金を活用）。



この事業は、出荷団体が県産農林水産物（戦略品目等）を本土に出荷する際、鹿児島県並の負担となるよう、輸送コストを補助するもので、輸送コスト負担が軽減されることによって、本土他産地と同等の条件下での市場競争が可能となり、本土出荷時期の拡大や出荷量の増加が期待されています。

平成25年度の実績額は沖縄県全体で23億3,025万円、八重山地区では1億7,510万円となっています。（大手出荷団体は本店所在地で申請）。

平成25年度事業実績

(単位:千円)

区分	八重山地区	沖縄県全体
野菜	26,185	543,368
花卉	9,911	1,157,871
果樹	49,478	108,407
水産物	86,266	509,269
その他	3,261	11,335
合計	175,101	2,330,250

補助対象品目

区分	品目		
野菜	さやいんげん	ゴーヤー	レタス
	スイートコーン	ばれいしょ	さといも
	オクラ	かぼちゃ	とうがん
	すいか	メロン	ニンジン
	ピーマン	島らっきょう	トマト
花き	輪ぎく	小ぎく	スプレーギク
	洋ラン	トルコギキョウ	ストレリチア
	ヘリコニア	レッドジンジャー	ソリダコ
	アレカヤシ	ドラセナ類	モンステラ
	観葉鉢物		
果樹	マンゴー	パパイヤ	中晩柑類(タンカン、天草、南香)
	パッションフルーツ	シークワーサー	パインアップル
	アセローラ	びわ	アテモヤ
	スターフルーツ	ドラゴンフルーツ	温州みかん
かんしょ	かんしょ		
薬用作物	薬用作物類		
木材	リュウキュウマツ等県産材		
特用林産物	きのこ		
畜産物	肉用牛	豚	
	クマエビ	モズク	スギ
水産物	ヤイトハタ	海ぶどう(クビレズタ)	アーサ(ヒトエグサ)
	マグロ類	ソデイカ	カジキ類

補助額 《主な基準額》

【航空】

地域	品目	補助単価
本島	花き・水産物	80円/kg以内
	野菜・果実	60円/kg以内
宮古	花き・水産物	140円/kg以内
	野菜・果実	115円/kg以内
石垣	花き・水産物	145円/kg以内
	野菜・果実	120円/kg以内

【船舶】

地域	品目	補助単価
本島	花き	35円/kg以内
	花き以外	20円/kg以内
宮古	全品目	35円/kg以内
石垣	全品目	35円/kg以内

4 その他紹介

(1) 拠点産地認定品目

平成27年3月現在

作物	対象品目		認定市町村	認定年月日
野菜	オクラ		石垣市	平成18年10月17日
	かぼちゃ		竹富町	平成26年3月26日
花き	熱帯性花き	ヘリコニア	石垣市	平成19年6月21日
		ジンジャー類	石垣市	平成19年6月21日
果樹	パインアップル(生食用)		石垣市	平成19年8月10日
			竹富町	平成20年3月27日
肉用牛	肉用牛(子牛)		石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(肥育)		石垣市	平成20年9月24日
薬用作物	ボタンボウフウ		与那国町	平成18年3月30日



オクラ



かぼちゃ



ヘリコニア



ジンジャー類



パインアップル



肉用牛



ボタンボウフウ

(2) 石垣島ダム祭り

主催：石垣島ダムまつり実行委員会
 石垣島土地改良区/沖縄県八重山農林水産振興センター
 石垣市農林水産部村づくり課



農業用ダムの多面的機能をPRし、石垣市民に親しみを持ってもらうため、「石垣島ダムまつり」が開催されました。今年で9年目となるダムまつりは年々地元浸透してきており、今年約1,700人の来場者がありました。また、湖面を利用したウェイクボードやカヌー体験、バナナボート体験では多くの方が参加され、非常に充実したまつりとなりました。

ダムの多面的機能



期日：平成26年7月6日(日)

場所：石垣市名蔵ダム

イベント：(湖面)ウェイクボードコンテスト/バナナボート体験/カヌー体験 (堤体)消防放水体験/ダムの生き物展示/(ステージ)バンド演奏/ダンス/青年会エイサー (その他)お天気教室、施設見学ツアー、NN事業パネル展 他



エイサー



ウェイクボード大会



ダムの生き物展



カヌー体験



軽食等の出店コーナー



消防放水体験

今年も、地元青年会、八重山ウェイクボード協会等の協力があり、また、ステージでも多くの団体に協力していただき、大成功に終わることができました。

まつり経費の大部分を地元の企業や団体に支援・協力していただき、より地元根付いた形でのまつりの開催となりました。今後も持続的なまつりとして、地元親しんでいただければと思います。

(3) 県産材の利用促進

八重山地域は植栽後40年以上経過したリュウキュウマツの人工造林地が多く、かつ松くい虫の被害がないため木材としての安定供給が望まれていることから、平成24年度から補助事業を活用し、過密林分における間伐事業を実施し間伐材の利用促進に取り組んでいるところです。

そのような中、平成25年7月19日(金)、南ぬ島石垣空港ターミナル(1階到着ロビー)で間伐材を用いた木製ベンチの寄贈式が行われました。

本取組は、農林中央金庫が、社会貢献活動(CSR活動)の一環として、「沖縄県産材」の認知度向上や森林施業への理解促進の一助となることを目的に、八重山産のリュウキュウマツを利用した木製ベンチを石垣市へ寄贈するもので、式典には関係者(県、石垣市、農林中央金庫那覇支店、八重山森林組合、石垣空港ターミナル株式会社)多数と南ぬ島空港のマスコット「ぱいーぐる」も参加し会場を盛り上げていただきました。

今後とも間伐材の利用促進に取り組み、木のぬくもりを感じていただくとともに、環境負荷の少ない県産材のPRに努めていきます。



「沖縄県産材」を利用した木製ベンチ贈呈式の様子



木製ベンチは、2階展望デッキフロアや1階手荷物受渡所に設置しているので、南ぬ島石垣空港にお越しの際は、是非、木のぬくもりを感じてください。

(4) 竹富町赤土等流出防止農地対策マスタープラン

目的・必要性

西表島・小浜島は、本土復帰以前パインブームの1960年代にパイン生産地において一部赤土等の流出が見られた。

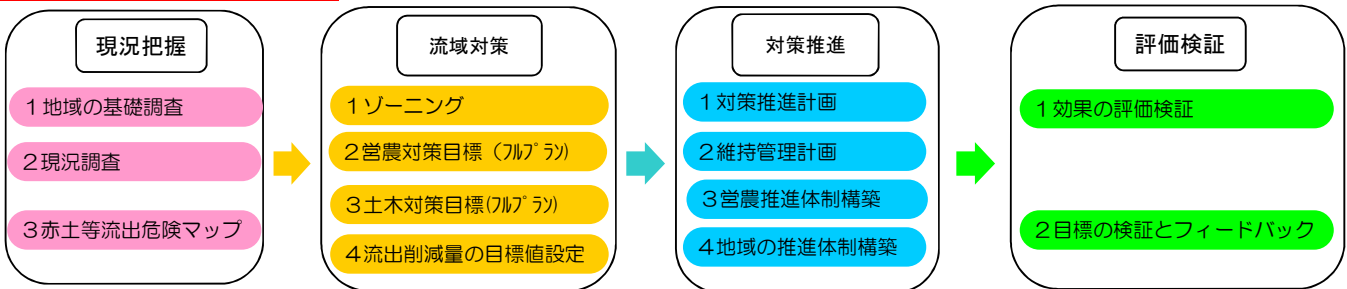
しかし、本土復帰(1972年)を境に本土に追いつけ追い越せの掛声の基、産業基盤の整備が急速に進められ、赤土流出が顕著になり貴重な生態系や関連産業(水産業・観光等)に大きな悪影響を及ぼした。農地を発生源とした赤土等流出において、平成に入り様々な対策を講じてきたが、赤土等の流出は阻止できず効率的な対策の推進が課題となっている。

このような歴史的状況を鑑み、平成21年度に西表島と小浜島を対象とした「竹富町赤土等流出防止農地対策マスタープラン」を策定した。

マスタープランは、流域の状況を一筆毎に調査して作成された赤土等流出危険度マップを用いて対策目標を設置し、対策の推進計画、評価検証システムを構築し、地域の総合的な赤土等対策推進計画となっている。



マスタープランの構成



西表島

- ①竹富町南西表島面積 S=289km²
- ②農用地面積(H21年) A=868ha
 - ・内さとうきび = 290 //
 - ・内パインアップル = 81 //
 - ・内水田・水田跡 = 143 //
 - ・内草地・放牧地 = 247 //
 - ・内その他 = 107 //
- ③保全対策圃場(H21年)
 - ・グリーンベルト A= 36ha
 - ・部分マルチ = 1 //
- 流出可能性高い圃場 277ha

営農対策目標(フルプラン)

- ・さとうきび作付体系の収穫割合を、さとうきび増産プロジェクトの生産目標に基づいて夏植:春植:株出=69%:11%:20%を目標とする。
- 夏植 221ha、春植 16ha、株出 33ha、計270ha
- ・緑肥 111ha、グリーンベルト 235ha

土木対策目標(フルプラン)

- ①発生源対策
 - ・勾配修正対象面積 42ha(勾配修正、石積、グリーンベルト、承水路)
 - ・斜面長修正対象面積 27ha(畦畔工、グリーンベルト、承水路)
- ②流出防止対策
 - ・沈砂池 新設:73基、既設改修:143基
 - ・浸透池 新設:8基、既設改修:3基
 - ・排水路整備 51,000m(承水路、集水路含む)
- ③外的要因発生箇所対策

ゾーニング

- ・畑地ゾーン 725ha
- ・常緑植生ゾーン 335ha
- ・被覆変化植生ゾーン 390ha(対策対象ゾーン)

小浜島

- ①竹富町小浜島面積 S=8km²
- ②農用地面積(H21年) A=302ha
 - ・内さとうきび = 126 //
 - ・内水田・水田跡 = 26 //
 - ・内草地・放牧地 = 126 //
 - ・内その他 = 24 //
- ③保全対策圃場(H21年)
 - ・グリーンベルト A= 5ha
- 流出可能性高い圃場 103ha

営農対策目標(フルプラン)

- ・さとうきび作付体系の収穫割合を、さとうきび増産プロジェクトの生産目標に基づいて夏植:春植:株出=65%:13%:22%を目標とする。
- 夏植 100ha、春植 10ha、株出 17ha、計127ha
- ・緑肥 50ha、グリーンベルト 77ha

土木対策目標(フルプラン)

- ①発生源対策
 - ・勾配修正対象面積 7ha(勾配修正、石積、グリーンベルト、承水路)
 - ・斜面長修正対象面積 16ha(畦畔工、グリーンベルト、承水路)
- ②流出防止対策
 - ・沈砂池 新設:18基、既設改修:12基
 - ・浸透池 新設:0基、既設改修:4基
 - ・排水路整備 22,000m(承水路、集水路含む)
- ③外的要因発生箇所対策

ゾーニング

- ・畑地ゾーン 276ha
- ・常緑植生ゾーン 148ha
- ・被覆変化植生ゾーン 128ha(対策対象ゾーン)

流域対策目標設定

営農対策



土木対策



「営農対策目標」「土木対策目標」を設定し、地域が一体となった継続的な行動を可能とする対策目標を設定した。

流出削減目標	西表島	小浜島
フルプラン削減目標	13%	58%
海域指標 SPSS	ランク5以下	ランク5以下
平成27年度までの削減目標	4%	31%

(5) 沖縄県農地中間管理機構の概要について

I. 農地中間管理機構とは

○農地中間管理機構とは、農地の出し手と受け手（担い手）の仲介役として、受け手（担い手）への農地集積・集約化に取り組む「信頼できる農地の中間的受け皿」として「農地中間管理事業」を行う機関です。

○沖縄県では、公益財団法人沖縄県農業振興公社が沖縄県知事より農地中間管理機構として指定を受け、平成26年4月1日より「農地中間管理事業」を実施しています。

II. 農地中間管理事業の概要

○農地中間管理事業とは、「人・農地プラン」と一体的に推進し、認定農業者、認定就業者などの地域の中心的担い手へ農地集積・集約化を図り、農地の有効利用や農業経営の効率化を進める事業として、以下のことを実施します。

- ①出し手から農地を借受け、集約化して受けて（担い手）へ貸付け
- ②機構が預かっている農地の管理（最長で2年間）
- ③必要と判断される場合の農地の利用条件整備
- ④農地集積・集約のために必要とされる農地の売買

○受け手への農地の貸付けについては、市町村窓口や農業振興公社で、公募により毎年6月頃に30日間程度の募集を行います。また、これ以外に必要に応じて、追加公募を行います。

III. 農地中間管理事業を活用するメリット

【農地の出し手のメリット】

- ①賃料の徴収・支払いは、農地中間管理機構が責任を持って行います。
- ②農地借入れ契約期間の満了時には、農地所有者に確実に返ってきます。
- ③借入れた農地は、借り手が見つかるまで、最長で2年間適切に管理し、その間の出し手への賃料は、機構が支払います。
- ④出し手が農地中間管理機構へ、農地を10年以上貸し付けるなど一定の要件を満たせば、賃借料とは別に「機構集積協力金」の交付を受けられる場合があります。

【農地の受け手（担い手）のメリット】

- ①農地を集積・集約化し、できるだけ、まとまった農地を受け手（担い手）へ貸し付けるので、農業経営の効率化が図られます。
- ②農地借入れ期間の満了時まで、安心して耕作することができます。
- ③機構は、出し手と受け手（担い手）との仲介役として、複数の出し手との個別調整や事務手続き等を行うので、煩雑な手続きが解消されます。

